

並木伸賢<sup>1)</sup>, 堀野博幸<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

<sup>2)</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院

キーワード: キャリア困難感, 大学生アスリート, 尺度開発, デュアルキャリア, キャリア移行

### 【抄録】

本研究の目的は, 大学生アスリートのキャリア困難感を測定する尺度(以下, 困難感尺度)を作成し, 信頼性・妥当性を検証することであった。

調査1では, 関東にある大学3校より体育会運動部に所属する216名(平均年齢19.88歳±1.28)より回答を得た。インタビュー調査と先行研究を基に原案28項目を作成し, 項目分析(天井効果・床効果, I-T 相関分析)およびプロマックス回転を用いた探索的因子分析を行った結果, ①競技者以外のキャリアに対する困難, ②競技者としてのキャリアを追求することの困難, ③競技者引退後のキャリア・生活に対する困難の3因子構造16項目が得られた。基準関連妥当性の検証のため相関分析を行ったところ, ②競技者としてのキャリアを追求することの困難と競技パフォーマンスの自己評価に弱い負の相関, ①競技以外のキャリアに対する困難および③競技者引退後のキャリア・生活に対する困難とキャリア成熟度に弱い負の相関が得られた。

調査2では, オンライン調査会社を通じてWebにてアンケートを配布し適切な回答を得た174名(平均年齢19.89±1.14歳)が分析対象となった。基準関連妥当性の検証のため競技者アイデンティティと相関分析を行ったところ, いずれの因子も弱い正の相関が得られた。再検査信頼性について, 2時点で測定した困難感尺度の級内相関係数は $r = .69 \sim .77$ であった。調査1および調査2の困難感尺度のCronbachの $\alpha$ 係数は,  $\alpha = .79 \sim .92$ であった。また, 調査1にて得られた因子構造について確認的因子分析を行ったところ, 概ね満足できるモデル適合度が得られた。以上を踏まえ, 困難感尺度には一定の信頼性・妥当性が得られたと考えられた。今後は, 競技者以外のキャリアへの支援のみならず, 本尺度を用いて競技者としてのキャリアに対して彼らがどのように捉えているのか踏まえつつ支援を行うことが重要と考えられた。

スポーツ科学研究, 20, 141-158, 2023年, 受付日:2023年8月1日, 受理日:2023年10月20日

連絡先: 並木伸賢 359-1192 所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学スポーツ科学研究科

n\_namiki@ruri.waseda.jp